

3 財務内容の状況

(1) 流動比率の変化

短期的な支払能力を示す流動比率は、全体では前年に比べ下降した。取扱品目別にみると、水産物、青果物及び花きでは下降し、食肉では上昇した。

流動比率(表3-1)

	令和3年	令和4年
全 体	223.58%	211.28%
水 産 物	214.25%	191.18%
青 果 物	230.59%	225.28%
花 き	204.57%	191.43%
食 肉	234.19%	239.41%

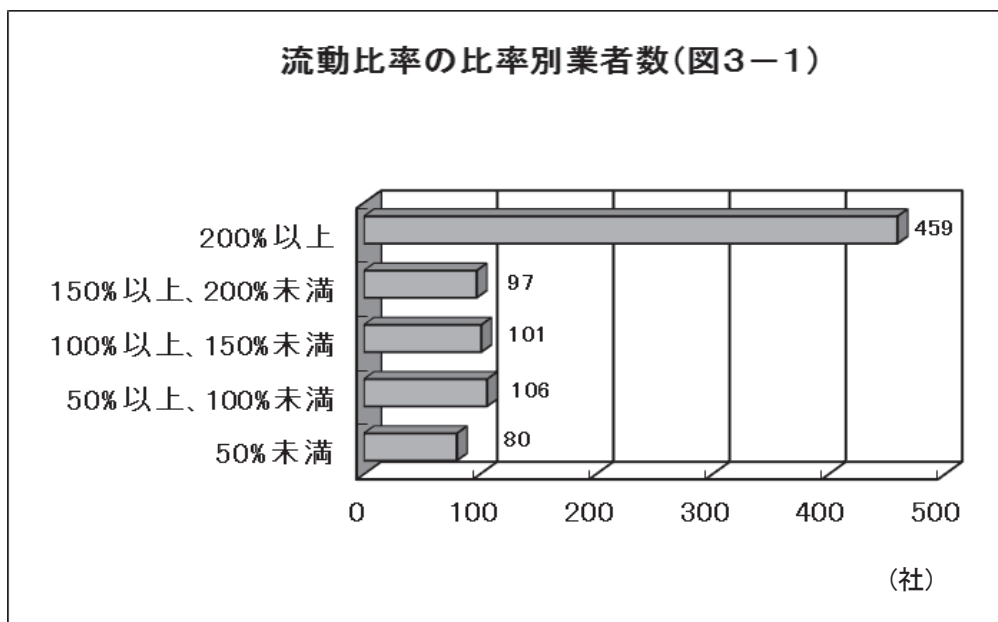
流動比率が上昇した業者数と下降した業者数の割合を取扱品目別にみると、水産物、青果物及び花きでは下降した業者数が上昇した業者数を上回り、食肉では上昇した業者数と下降した業者数が同数であった。

流動比率の変化(表3-2)

	上昇した業者	下降した業者	不明
全 体	36.8%	60.9%	2.4%
水 産 物	33.1%	65.1%	1.8%
青 果 物	42.3%	54.2%	3.5%
花 き	34.2%	63.2%	2.6%
食 肉	50.0%	50.0%	0.0%

(2) 流動比率の比率別業者数

流動比率が200%以上の業者は459社であった。一方で、100%未満の業者は186社であった。



取扱品目別にみると、100%未満の業者は、水産物では131社(26.4%)、青果物では48社(16.7%)、花きでは6社(15.8%)、食肉では1社(4.2%)となっており、水産物の割合が最も高かった。

流動比率の比率別業者数(表3-3)

単位：社

	50% 未満	50% 以上 100% 未満	100% 以上 150% 未満	150% 以上 200% 未満	200% 以上
全 体	80 (9.5%)	106 (12.6%)	101 (12.0%)	97 (11.5%)	459 (54.4%)
水 産 物	66 (13.3%)	65 (13.1%)	55 (11.1%)	51 (10.3%)	258 (52.1%)
青 果 物	13 (4.5%)	35 (12.2%)	37 (12.9%)	35 (12.2%)	166 (58.0%)
花 き	1 (2.6%)	5 (13.2%)	5 (13.2%)	8 (21.1%)	19 (50.0%)
食 肉	0 (0.0%)	1 (4.2%)	4 (16.7%)	3 (12.5%)	16 (66.7%)

(3) 売掛債権回転日数の増減

販売代金の回収期間を示す売掛債権回転日数は、全体では前年に比べ長くなった。取扱品目別にみると水産物、青果物及び食肉では長くなり、花きでは短くなった。

売掛債権回転日数(表3-4)

	令和3年	令和4年
全 体	21.18 日	22.21 日
水 産 物	26.43 日	26.87 日
青 果 物	15.68 日	16.18 日
花 き	41.15 日	37.31 日
食 肉	29.53 日	31.27 日

売掛債権回転日数が長くなった業者数と短くなった業者数の割合を取扱品目別にみると、水産物、青果物及び食肉では長くなった業者数が短くなった業者数を上回り、花きでは短くなった業者数が長くなった業者数を上回った。

売掛債権回転日数の増減(表3-5)

	長くなった業者	短くなった業者	不明
全 体	53.9%	43.8%	2.4%
水 産 物	54.9%	43.2%	1.8%
青 果 物	54.2%	42.3%	3.5%
花 き	28.9%	68.4%	2.6%
食 肉	66.7%	33.3%	0.0%

(4) 買掛債務回転日数の増減

仕入代金の支払期間を示す買掛債務回転日数は、全体では前年に比べ長くなった。取扱品目別にみると水産物及び青果物では長くなり、花き及び食肉では短くなった。

買掛債務回転日数(表3-6)

	令和3年	令和4年
全 体	12.81 日	13.40 日
水 産 物	15.20 日	16.16 日
青 果 物	11.29 日	11.62 日
花 き	35.03 日	32.68 日
食 肉	8.25 日	7.38 日

買掛債務回転日数が長くなった業者数と短くなった業者数の割合を取扱品目別にみると、水産物及び青果物では長くなった業者数が短くなった業者数を上回り、花き及び食肉では短くなった業者数が長くなった業者数を上回った。

買掛債務回転日数の増減(表3-7)

	長くなった業者	短くなった業者	不明
全 体	57.2%	40.5%	2.4%
水 産 物	61.0%	37.2%	1.8%
青 果 物	53.1%	43.4%	3.5%
花 き	44.7%	52.6%	2.6%
食 肉	45.8%	54.2%	0.0%

(5) 借入金比率の変化

借入金比率は、全体では前年に比べ下降した。取扱品目別にみると、水産物及び花きでは下降し、青果物及び食肉では上昇した。

借入金比率(表3-8)

	令和3年	令和4年
全 体	49.10%	48.80%
水 産 物	62.47%	60.62%
青 果 物	37.86%	38.37%
花 き	47.30%	42.03%
食 肉	53.74%	54.55%

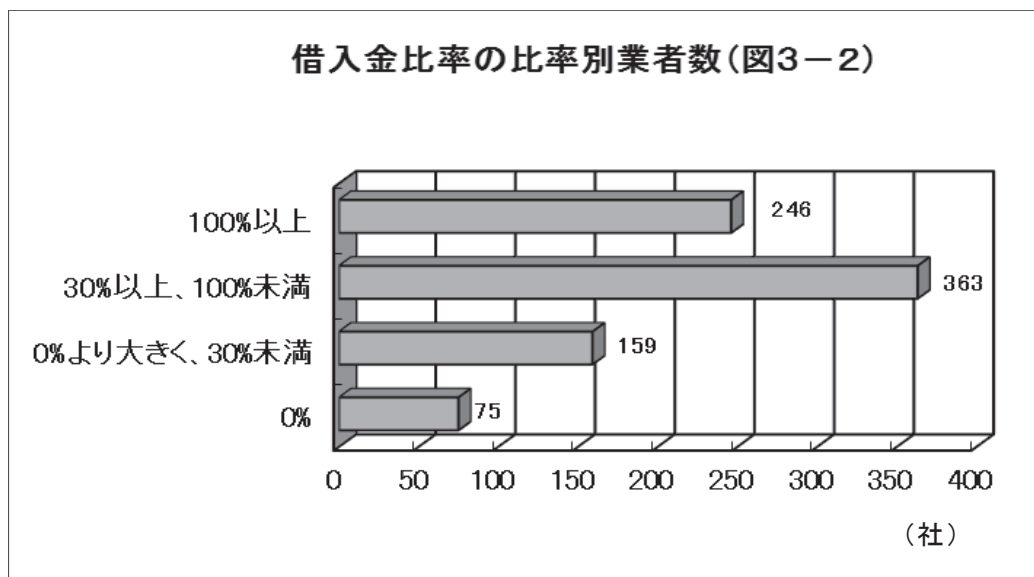
借入金比率が上昇した業者数と下降した業者数の割合を取扱品目別にみると、水産物、青果物及び花きでは下降した業者数が上昇した業者数を上回り、食肉では下降した業者数と上昇した業者数が同数であった。

借入金比率の変化(表3-9)

	上昇した業者	下降した業者	不明
全 体	38.8%	58.8%	2.4%
水 産 物	42.6%	55.6%	1.8%
青 果 物	33.9%	62.6%	3.5%
花 き	18.4%	78.9%	2.6%
食 肉	50.0%	50.0%	0.0%

(6) 借入金比率の比率別業者数

借入金比率別にみると、無借金経営(借入金比率0%)の業者が75社(8.9%)あった一方、借入金比率100%以上の業者が246社(29.2%)あった。



取扱品目別にみると、借入金比率が100%以上の業者の割合は、水産物では34.3%、青果物では24.5%、花きでは15.8%、食肉では該当がなかった。

借入金比率の比率別業者数(表3-10)

単位：社

	0%	0%より大きく 30%未満	30%以上 100%未満	100%以上
全 体	75 (8.9%)	159 (18.9%)	363 (43.1%)	246 (29.2%)
水 産 物	29 (5.9%)	75 (15.2%)	221 (44.6%)	170 (34.3%)
青 果 物	43 (15.0%)	69 (24.1%)	104 (36.4%)	70 (24.5%)
花 き	1 (2.6%)	13 (34.2%)	18 (47.4%)	6 (15.8%)
食 肉	2 (8.3%)	2 (8.3%)	20 (83.3%)	0 (0.0%)

(7) 自己資本比率の変化

長期的な財務の安全性を判断する自己資本比率は、全体では前年に比べ下降した。取扱品目別にみると、水産物、青果物及び食肉では下降し、花きでは上昇した。

自己資本比率(表3-11)

	令和3年	令和4年
全 体	31.34%	30.76%
水 産 物	19.06%	18.78%
青 果 物	42.34%	42.07%
花 き	21.68%	23.16%
食 肉	29.37%	28.93%

自己資本比率が上昇した業者数と下降した業者数の割合を取扱品目別にみると、水産物は下降した業者数が上昇した業者数を上回り、青果物、花き及び食肉では上昇した業者数が下降した業者数を上回った。

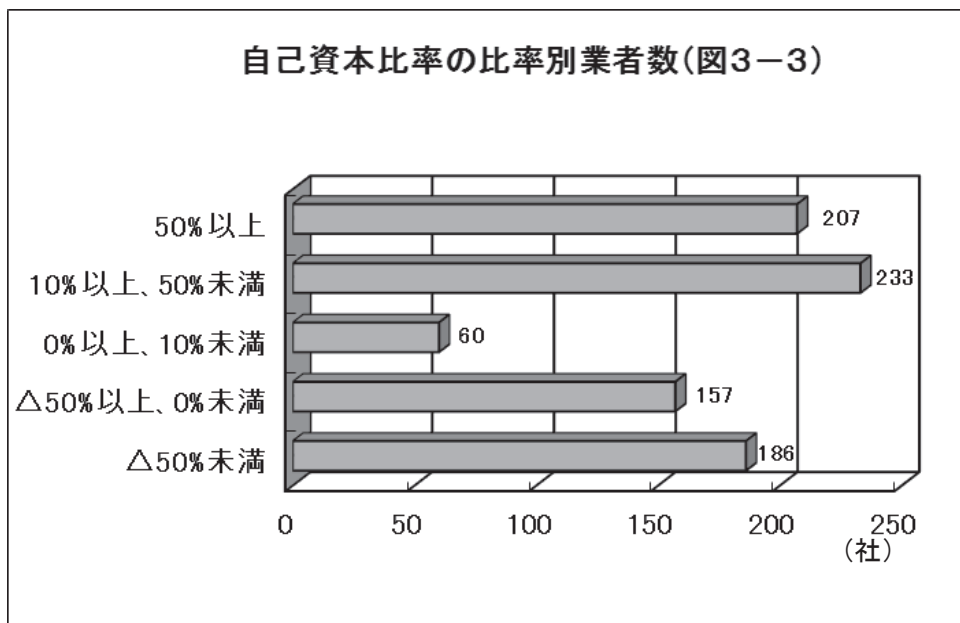
自己資本比率の変化(表3-12)

	上昇した業者	下降した業者	不明
全 体	48.2%	49.5%	2.4%
水 産 物	45.5%	52.7%	1.8%
青 果 物	51.0%	45.5%	3.5%
花 き	57.9%	39.5%	2.6%
食 肉	54.2%	45.8%	0.0%

(8) 自己資本比率の比率別業者数

自己資本比率が50%以上の業者が、全体では207社(24.6%)あった。一方で、自己資本比率がマイナス(債務超過)の業者が343社(40.7%)あった。

※ 前年調査 50%以上 208 社、10～50% 230 社、0～10% 70 社、△50～0% 177 社、～△50% 176 社



取扱品目別にみると、青果物では50%以上の層が最も多く、水産物、花き及び食肉では10%以上50%未満の層が最も多かった。

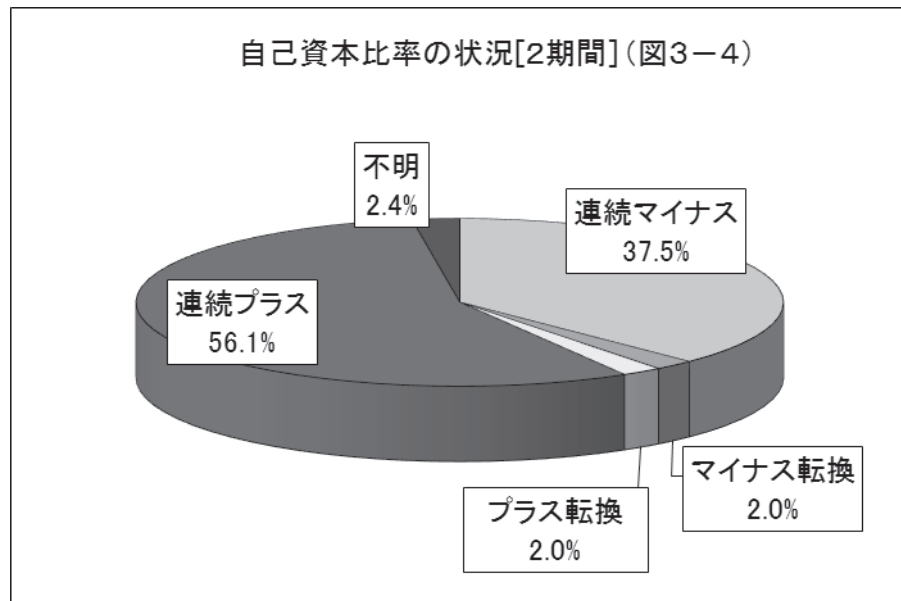
自己資本比率の比率別業者数(表3-13)

単位：社

	△50% 未満	△50% 以上 0% 未満	0% 以上 10% 未満	10% 以上 50% 未満	50% 以上
全 体	186 (22.1%)	157 (18.6%)	60 (7.1%)	233 (27.6%)	207 (24.6%)
水 産 物	132 (26.7%)	100 (20.2%)	33 (6.7%)	134 (27.1%)	96 (19.4%)
青 果 物	48 (16.8%)	49 (17.1%)	16 (5.6%)	70 (24.5%)	103 (36.0%)
花 き	6 (15.8%)	7 (18.4%)	6 (15.8%)	15 (39.5%)	4 (10.5%)
食 肉	0 (0.0%)	1 (4.2%)	5 (20.8%)	14 (58.3%)	4 (16.7%)

(9) 自己資本比率の状況(2期間)

自己資本比率が2期連続してプラスとなった業者は56.1%であった。一方で、2期連続してマイナスとなった業者は37.5%となった。また、プラスに転換した業者が2.0%、マイナスに転換した業者が2.0%となった。



取扱品目別にみると、青果物、花き及び食肉で2期連続してプラスとなった業者が半数を超えていた。一方で、2期連続してマイナスとなった業者は、水産物では44.0%、青果物では29.7%、花きでは31.6%、食肉では4.2%となった。

自己資本比率の状況(2期間)(表3-14)

単位：社

	連続プラス業者	プラス転換業者	マイナス転換業者	連続マイナス業者	不明
全 体	473 (56.1%)	17 (2.0%)	17 (2.0%)	316 (37.5%)	20 (2.4%)
水 産 物	247 (49.9%)	13 (2.6%)	8 (1.6%)	218 (44.0%)	9 (1.8%)
青 果 物	181 (63.3%)	2 (0.7%)	8 (2.8%)	85 (29.7%)	10 (3.5%)
花 き	22 (57.9%)	2 (5.3%)	1 (2.6%)	12 (31.6%)	1 (2.6%)
食 肉	23 (95.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.2%)	0 (0.0%)

(10) 経営の健全性に関する指標に該当する業者数

経営の健全性に関する指標
① 流動比率 100%を下回ること
② 自己資本比率 10%を下回ること
③ 3期連続して経常損失が生じること
以上のいずれかに該当した場合

上記指標に該当する業者数は次のとおりである。

該当業者は全体で57.9%と、前年(57.1%)より0.8ポイント上回った。

該当業者数(表3-15)

	該当業者数	上 記 指 標			全ての指標 に該当	調査対象 業者(注)
		流動比率 100%未満	自己資本比率 10%未満	3期連続 経常損失		
全 体	467 業者 ^[57.9%] (451 業者)	176 業者 (158 業者)	383 業者 (386 業者)	226 業者 (172 業者)	74 業者 (54 業者)	806 業者 (790 業者)
水 産 物	309 業者 ^[64.8%] (305 業者)	124 業者 (118 業者)	253 業者 (258 業者)	163 業者 (124 業者)	57 業者 (43 業者)	477 業者 (469 業者)
青 果 物	131 業者 ^[48.9%] (118 業者)	45 業者 (34 業者)	106 業者 (102 業者)	59 業者 (44 業者)	15 業者 (10 業者)	268 業者 (259 業者)
花 き	21 業者 ^[56.8%] (22 業者)	6 業者 (5 業者)	18 業者 (20 業者)	4 業者 (3 業者)	2 業者 (1 業者)	37 業者 (38 業者)
食 肉	6 業者 ^[25.0%] (6 業者)	1 業者 (1 業者)	6 業者 (6 業者)	0 業者 (1 業者)	0 業者 (0 業者)	24 業者 (24 業者)

(注) 令和2年、令和3年、令和4年の3期連続して事業報告書が提出された業者

※ []内パーセンテージは全体又は取扱品目ごとの調査対象業者に占める上記指標該当業者の割合

※ 下段 () 内は前年の調査結果